

Gut Dysbiosis in Patients with Anorexia Nervosa

森田, 千尋

<https://doi.org/10.15017/1654762>

出版情報：九州大学, 2015, 博士（医学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：全文ファイル公表済



氏 名：森田 千尋

論 文 名：Gut Dysbiosis in Patients with Anorexia Nervosa

(神経性食欲不振症における腸内細菌叢の異常)

区 分：甲

論 文 内 容 の 要 旨

神経性食欲不振症 (Anorexia nervosa: AN) は、重篤な身体障害をきたす精神疾患であるが、その病態生理学的機序は、今なお不明である。近年、体重増加の制御において腸内細菌の重要性を示す報告が多数なされており、AN 患者が、腸管内の細菌の不均衡、いわゆる “dysbiosis” を生じている可能性が推測される。

本研究において、我々は、16S および 23S リボソーム RNA をターゲットとした定量的 RT-PCR 法に基づく全自動腸内細菌解析システム (Yakult Intestinal Flora SCAN (YIF-SCAN®)) により、25 名の女性 AN 患者 (制限型, ANR, n=14; むちゃ食い排出型, ANBP, n=21) と、年齢を一致させた健常な対照女性 (n=21) の糞便の細菌叢を比較した。

AN 患者は、総細菌数および *Clostridium(C.) coccooides* group、*C. leptum* subgroup、*Bacteroides(B.) fragilis* group を含む偏性嫌気性菌の細菌数が、同年齢の健常女性と比較し、有意に低値であった。また AN 群では、対照群と比較し、*Streptococcus* 菌数も有意に少なかった。AN の病型別解析では、ANR および ANBP 群の *B. fragilis* group の細菌数と ANR 群の *C. coccooides* group の細菌数は、対照群より有意に低値であった。また AN 群における *Lactobacillus plantarum* subgroup の検出率は、対照群より、有意に低かった。有機酸濃度に関しては、AN 群の糞便中酢酸およびプロピオン酸濃度は、対照群より有意に低値であった。病型別解析では、ANR 群の酢酸濃度は、対照群より優位に低かった。主成分分析を行った結果、AN 患者と健常女性との間に、細菌構成の明確な差を認めた。

以上の結果は、AN 患者で腸内細菌叢の異常が生じていることを示している。